



No.100

さいばい ニュース

公益財団法人
 神奈川県栽培漁業協会
 発行所 〒238-0237
 神奈川県三浦市三崎町
 城ヶ島養老子
 ☎ 046(882)6980
 FAX 046(881)2233

平成二十七年度事業計画 マダイ・アワビ・カサゴなど種苗生産・供給に力

平成二十七年度事業計画



今年度も種苗生産に努力

当協会は昭和六十一年に「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する。」ことを目的に設立され、今年で二十九目を迎えることとなりました。

今年度はマダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイ、カサゴ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合をはじめとする水産団体への供給を行います。

さらに、昨年に引き続き業界の強い要望であるヒラメ種苗などの種苗を入手し放流します。これら当協会の中核事業である種苗生産・放流並びに供給事業を行うことにより神奈川県の水産資源の維持増大を図ります。

そして栽培漁業と当協会の活動についての理解と協力が得られるよう、漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴えるため普及啓発活動を行います。

係団体等の協力により各種苗の増産を図ります。また、昨年に引き続き「太平洋南海域栽培漁業推進協議会」で、他県と連携し広域にヒラメ種苗放流事業を展開します。その一方、事業の執行については、経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。

事業内容

- (一)種苗放流事業
 - マダイ種苗放流事業 東京湾域 十萬尾
 - 三浦半島 十萬尾
 - 西湘域 十萬尾
 - ヒラメ種苗放流事業 東京湾域 二萬尾
 - 三浦半島 二萬尾
 - 西湘域 二萬尾
- (二)普及啓発事業
 - PR推進事業 「栽培ニュース」(二千五百部)回、年二回)を作成し県内の漁業協同組合、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等へ配布し当協会の広報活動を実施します。
 - イベント推進事業 各地で開催される地域イベント等に参加し、漁業者はもとより広く一般県民に対して水産資源の保護、海洋環境の保全を強く訴え、栽培漁業の普及啓発を行います。
 - (三)調査事業
 - マダイ遊漁標本船調査 県内マダイ遊漁船の中から川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に標本船調査を実施する。(標本船十二隻)
 - (四)種苗供給事業
 - ①生産供給 アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ、クロダイ、カサゴ及びマコガレイ種苗を生産し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。
 - ②斡旋供給 ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグ、などの種苗を入手し漁業協同組合をはじめとする水産団体等へ供給します。



赤ちゃんを背にクロダイ種苗放流

平成27年度 種苗生産・供給

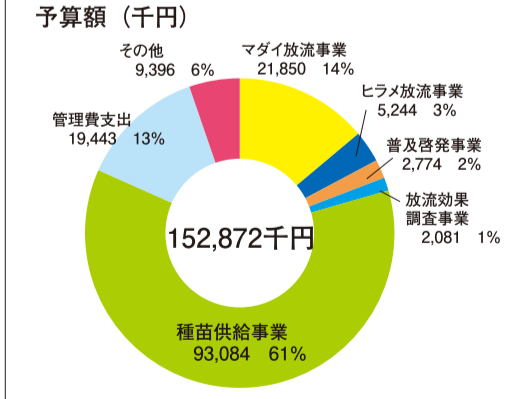
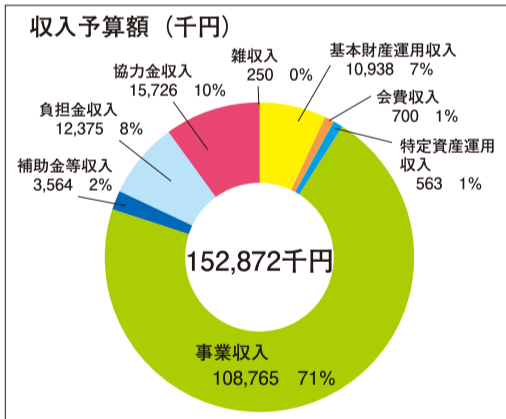
事業名	種苗名(サイズ)	27年度(計画)	26年度(実績)
種苗生産	アワビ(5mm)	30,000個	30,000個
	〃(25mm)	250,000個	241,200個
	〃(30mm)	50,000個	52,800個
	サザエ(20mm)	350,000個	352,250個
	トコブシ(15mm)	70,000個	65,300個
	*トコブシ(大型)	10,000個	6,373個
	マダイ(70mm)	350,000尾	538,700尾
	クロダイ(60mm)	70,000尾	67,000尾
	カサゴ(60mm)	10,000尾	0尾
種苗供給	マコガレイ(40mm)	25,000尾	16,000尾
	ヒラメ(60mm)	200,000尾	216,547尾
	*ヒラメ(大型)	3,000尾	1,425尾
	メバル(60mm)	20,000尾	25,000尾
	カサゴ(60mm)	170,000尾	175,800尾
	トラフグ(50mm)	20,000尾	22,000尾
	カワハギ(50mm)	11,000尾	11,000尾

*養殖用種苗

2015年度 資金収支予算書

事業活動収入 (千円)	
科目	予算額
基本財産運用収入	10,938
特定資産運用収入	563
会費収入	700
事業収入	108,765
補助金等収入	3,564
負担金収入	12,375
協力金収入	15,726
雑収入	250
合計	152,872

事業支出 (千円)	
事業支出	予算額
マダイ放流事業	21,850
ヒラメ放流事業	5,244
普及啓発事業	2,774
放流効果調査事業	2,081
種苗供給事業	93,084
管理費支出	19,443
その他	8,396
合計	152,872



平成27年度 予算

事業活動収入の合計は、一億五千二百万円余です。事業支出はマダイ放流事業で二千八百五十万円、ヒラメ種苗放流事業で五百二十四万四千円、アワビ、サザエ、クロダイ、ヒラメなどの種苗生産・供給事業で九千三百八万四千円を見込んでいます。

ここにきて神奈川県下でも、新しい海藻資源として注目を集めているアカモクです。しかし、かつては漁船のスクリーンに絡んだり潜水漁業のじやまになるなどで「嫌われもの」でした。ところが、アカモクは体に良いといわれるフコダインがメカブの三〜五倍、さらに、ミネラルや食物繊維がたっぷりふくまれている「海の有機野菜」といわれる優良食材です。しかも、ワカメと同じ海藻類なのでヌメヌメしているのが越しが非常によく、お年寄りや小さな子どもにも食べやすく、噛むとシャキシャキ感の食感が喜ばれ、和・洋・中華と幅広く利用できるのも魅力です。▼食べ方の一例ですが、三十分ほど水に浸し、ザルに広げて緑色になるまで熱湯をかけ、まな板に乗せ包丁で軽く刻み、ヌメリが出るまでたたき、刻みネギなどを加え、ポン酢で食べると絶品だし、アカモクを油で炒めた「スタミナ炒め」まで作ることができるよう「万能食材」です。▼このように素晴らしい海藻をほうっておくことはない、と「かながわ新名産」として神奈川県漁連も冷凍や乾燥したアカモク商品の普及に力を入れていきます。▼このヘルシー食材、アカモクを、ぜひ一度、家庭で食べてみてはいかがでしょうか。



負担金・協力金の3パーセント還元

神奈川県沿岸の資源培養のため、漁業者・漁業協同組合には負担金、また、遊漁案内業者・マダイ釣り船協力金として毎年、栽培漁業協会へのご支援を頂いております。

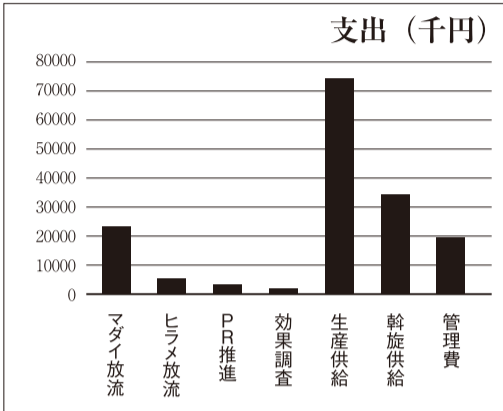
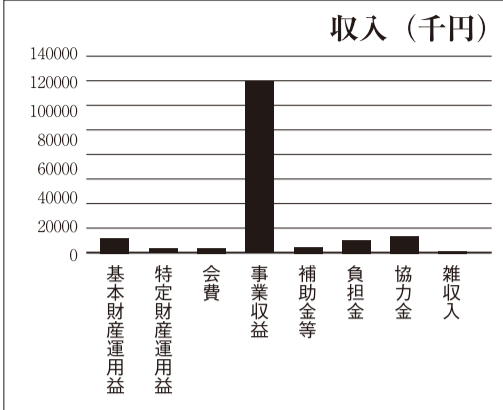
平成15年度までは、負担金・協力金の納付金に対する手数料として、組合等に納付金額の5パーセントを還元してきましたが、平成17年度の理事会において、還元金を資源培養のために使うということで、納付金の還元を中止してしました。

しかし、平成26年3月の理事会・評議員会において、平成27年度から負担金・協力金の納付金額に対して3パーセントを還元することに決まりました。

これは、神奈川県信用漁業協同組合連合会から漁業協同組合の預金口座が各金融機関に移動したことに伴い手数料が発生するための措置です。ただし、決済手数料は決済の方法・金融機関でも差があるため、漁業協同組合に行って頂く栽培漁業協会の協力金・負担金徴収に伴う事務の手数料とさせていただきます。

経常収益	収入(千円)
基本財産運用益	11,037
特定財産運用益	567
会費	683
事業収益	119,427
補助金等	2,929
負担金	12,240
協力金	15,514
雑収入	158
計	162,558

事業活動支出	支出(千円)
マダイ放流	23,036
ヒラメ放流	5,279
PR推進	3,133
効果調査	1,757
生産供給	73,440
幹旋供給	34,772
管理費	19,440
事業活動支出計	160,858



平成26年度 決算

平成二十六年年度の経常収益は、一億六千二百五十五万八千円でした。前年度と比較するとマダイの稚魚とサザエ種苗の供給増で九百万円ほど増額しています。

事業活動支出は、一億六千八百五十八万八千円でした。前年度との比較では、種苗供給の種苗を他県から購入したことによって六百七十五万円ほど増えています(図と表を参照)。正味財産期末残高は七億四千三百七十九万七千九百四十四円でした。前年度から三百七十二万六千三百十三円の減となりました。

神奈川県職員が健康ポイントで

栽培漁業協会に募金するシステムに登録

神奈川県職員が加入している神奈川県職員共済組合は、株式会社ベネフィット・ワン株式会社と「マイ健康ポータル」と業務提携を行い、職員の健康への取組に際して「健康ポイント」を付与しています。

ポイントには約五千五百点のアイテムから取得ポイントに応じて交換することが可能で、その中に「募金・社会貢献」のカテゴリがあります。健康ポイントは交換商品が二十三あり、その一項目に「募金・社会貢献」があります。現在、「募金・社会貢献」に掲載予定としている団体は、日本赤十字社、国境なき医師団日本、財団法人日本ユニセフなど十五あり、一ポイント一円に換算されます。神奈川県職員の方々には、栽培漁業の推進のため、沢山の交換メニューから栽培漁業推進基金を選択して頂き、栽培漁業協会へのご協力・ご支援を期待しています。

6月1日 神奈川県人事異動

鵜飼水産技術センター所長

水産課長は前川さんが就任

神奈川県は六月一日付で人事異動を発令しました。神奈川県水産技術センター所長にはこれまで水産課長だった鵜飼俊行さん、水産課長には水産振興担当課長の前川千尋さん、水産振興担当課長には水産技術センター栽培推進部長の杉浦暁裕さんが就任しました。これらの人以外の人事異動は次の通りです。

- ▽水産技術センター相模湾試験場長 山本章太郎(相模湾試験場専門研究員)▽水産技術センター栽培推進部長 滝口直之(水産課水産企画グループリーダー)▽水産企画グループリーダー 石黒雄一(水産課漁業調整・資源管理グループ副
- ▽漁業調整・資源管理グループ副技幹)
- ▽水産技術センター内水面試験場主任研究員 勝呂尚之(水産課漁業調整・資源管理グループ副技幹)
- ▽西部漁港事務所長 小林純一(県土整備局総務室主任技幹)▽管理漁港課副技幹 小川砂郎(水産課漁業調整・資源管理グループ主査)

日本釣振興会神奈川県支部

長井町地先に5000尾のヒラメ種苗放流



井尻で漁業者が4000尾放流

日本釣振興会神奈川県支部は六月七日、横須賀市長井町地先の海に合計五千尾のヒラメ種苗を放流しました。当協会が愛知県の水産種苗生産者から購入し、振興会に供給したヒラメ種苗で六センチに育っていました。最初に長井町井尻で、

長井町漁協の漁業者が活魚運搬車から受け取った四千尾の種苗を地先の海に放流しました。振興会神奈川県支部は長井海



荒崎海岸では子どもたちが放流

水産総合研究センター 増養殖研究所横須賀庁舎

巨大ソデイカなど展示



「荒崎海岸クリーンアップ」が開催 エスタ2015」が開催され、多くの親子連れな

を見張ったのは、同研究所が調査中に海で捕獲し展示した巨大ソデイカでした。普段は見ることができないだけに、子どもだけでなく大人もその大きさに驚きの表情を見せていました。



展示された巨大ソデイカ

ある国の水産総合研究センター増養殖研究所横須賀庁舎が一般公開されました。特に施設見学者が目

神奈川県第七次栽培漁業基本計画策定

資源回復による 漁家経営安定目指し

栽培漁業は、種苗生産、放流、資源管理による積極的な資源増大の手段として、沿岸資源を回復さ

せ漁家経営の安定に寄与するため、重要な施策の一つとなっています。

神奈川県では、国の栽培漁業基本方針を受けて、ほぼ五年間隔で、計画的かつ効率的に事業を展開するため栽培漁業基本計画を策定しています。

今回、国の水産基本計画との関連で、平成二十四年度から平成三十一年度の七か年計画として、神奈川県の第七次栽培漁業基本計画が四月十四日に公表されました。

計画期間内の種苗の放流目標は、マダイ七十万尾、ヒラメ二十万尾、クロダイ七万尾、マコガレイ全長二十ミリメートル

五万尾、全長四十ミリメートル二万尾、トラフグ五万尾、カサゴ十五万尾、メバル類二万尾、アワビ類三十万個、サザエ六十五万個です。

また、新技術開発種としてマナマコの種苗生産の基礎技術を行うこととしました。

さらに、都県の区域を越えて回遊する広域種については、関係する都県間の連携により、海域栽培漁業推進協議会に参画することにより、効果的な資源の維持及び回復を目指して、親魚を取り残して再生産を確保する資源造成型栽培漁業の取組をしていきます。

また、都県の区域を越えて回遊する広域種については、関係する都県間の連携により、海域栽培漁業推進協議会に参画することにより、効果的な資源の維持及び回復を目指して、親魚を取り残して再生産を確保する資源造成型栽培漁業の取組をしていきます。

神奈川県水産課

二十七年主要施策 当初予算説明会

カサゴ栽培漁業技術開発試験などに取り組み

神奈川県水産課は六月十日、平成二十七年主要施策および当初予算説明会を開催しました。八十名を上回る系統団体幹部、市町の担当職員らが出席して話を聞き



説明会に参加した人々

十七年度から新たにカサゴ栽培漁業技術開発試験に取り組むことなどを盛り込んだ主要事業基本方針が示されました。冒頭、前川千尋水産課長は「県の財政事情は厳しいですが、水産予算は前年度より一〇%以上増えました。漁協が行う収益向上や資源放流事業、磯焼けした藻場の回復に向けた地域の取り組みなどを支援します」と挨拶しました。

また、資源悪化の著しいシヤコやアワビ及び重要な漁獲対象魚であるマアナゴ、ナマコの資源管理の推進に向けた「複合的資源管理型漁業推進対策事業」、アワビの資源を回復させるための漁業者を助成する「重要水産資源回復推進事業」などに取り組みます。

ジャパンフイッシンググッドショー

会場では、日本釣振興会が「水産種苗の放流に協力して下さい」と募金箱を置いて寄付を呼び掛け、来場者は次々に募金していました。

日本釣用品工業会(島野容三会長)が主催する「ジャパンフイッシンググッドショー2015」は、横浜みなとみらい・パシフィコ横浜で開催されま



マダイ関連資料展示も人気

した。ニューモデルの釣り用品に人だかりができ、工業会と当協会と連携して実施しているマダイの放流事業を説明する展示コーナーに足を止め、パネルに見入る人が後を絶ちませんでした。

東京湾遊漁船業協会は、水槽で東京湾に棲んでいるマアジ、カワハギ、カサゴなどの生きた魚を展示しました。親に連れられ会場にきた小さな子どもが、泳ぎ回る魚に感嘆の声を上げていました。飲食コーナーではマグロ、アナゴ、シラス、イクラなどの丼、サバ寿司、ズワイガニの「蟹饅頭」など、日本各地の有名グルメを購入する人が長い列を作っていました。

かながわ信用金庫に 預金口座開設

公益財団法人神奈川県栽培漁業協会は、新しく

「かながわ信用金庫三崎支店」に口座を開設しました。

従来から振り込み先にご利用頂いていた、神奈川県信用漁業協同組合連合会の預金口座は、八月末に閉鎖します。

栽培漁業支援自動販売機による寄付

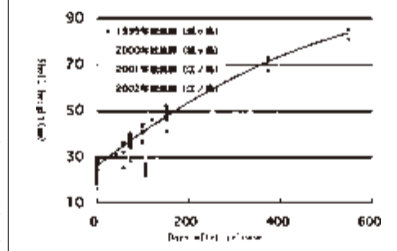
一昨年からサントリービバレッジ株式会社の自販機を県下に十台、キリンビバレッジ株式会社が二十六年十月から二十七年三月まで十二台を設置していただきました。

寄付金額はサントリービバレッジ株式会社が二十二万九千二百三十三円、キリンビバレッジ株式会社が三万三千五百三十九円でした。

さいばい漁業つて何(18)

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 専務理事 今井利為

江の島での放流群は城ヶ島放流群と比較すると成長が遅く、また、成長の偏差が大きく、放流後



(滝口未発表)

このことから、天然のサザエも多様な海藻を食べることが推察されます。

サザエの害敵

サザエの種苗は何にばべられているか。まず、あげられる種類はイトマキヒトデなどのヒトデ類、イシガニなどのカニ類、レイシヤイボニシ、ヒメヨウラクガイなどのアクキガイ類が主なものです。

サザエの種苗放流する際には、これら害敵生物を駆除することが生残率を高めることとなります。放流にあたって注意することです。

サザエの種苗放流は、アワビと比較すると、放流場所、時期、方法、大きさなどの条件が幅広いものと考えられます。

放流場所は、水深五メートルより浅く、岩礁地域で海底形状が複雑なところが適切でしょう。

放流時期については、夏の暑い時期は種苗の活力を弱めてしまいますので、避けてください。

サザエの放流効果を測るか

サザエは潜水、視察、刺網で漁獲されます。夏季に漁獲が多くなります。

が、産卵期である夏に禁漁期は設けられていませんので、ほぼ周年漁獲されています。

神奈川県海面漁業調整規則では、殻蓋長径が三センチメートル以下のサザエを漁獲制限し、この殻高は、ほぼ七十ミリメートルに相当します。

まず、市場に水揚げされたサザエの殻高と人工貝の混入率を測定します。この測定したサザエの殻長組成を求め、放流した年、誕生した年ごとに群を分け、それぞれの年の天然貝と放流貝の割合を求めます。

漁業協同組合に水揚げした総てのサザエの重量・個体数を仕切帳から求め、先ほど求めたそれぞれの年の放流貝の割合から、それぞれの年に放流されたサザエの漁獲個数が算出されます。

この数値を放流数で割ったものが回収率となります。放流したサザエは、放流後二、三、四の三年間で漁獲されます。

したがって、回収率は三年間の累積となります。

混入率

漁獲物中に占める人工放流貝の割合を混入率と言います。

神奈川県下で最もサザエの漁獲量が多い長井町漁業協同組合は、毎年、三十万個体前後の種苗を放流しており、混入率を調べたところ、二十四%でした。放流後二、三年貝では八一%を占めていました。(つづく)



【アクセス】車だと、三浦縦貫道路「林」出口より国道134号線に出て左折、道なりに進んで約15分で三崎港が目の前に。右折すると直ぐに7階建ての三崎魚市場が見え、その前です。電車・バスだと、京浜急行「三崎口」駅より京急バスの「三崎港」または「城ヶ島」行きに乗り「三崎港」で下車、徒歩約5分です。
 【所在地】三浦市三崎5丁目245-2
 【電話】046-874-8710

朝市・直販所めぐり シリーズ③

素材にこだわり、味にこだわる—湘南しらすの生産者直販 三崎魚市場前「君栄丸」

三崎港から「君栄丸」で目の前の海に出漁、しらすを漁獲して帰港すると直ちに釜揚げなどの加工製品を作り、漁業者直販をしているのが(株)君栄(宮川元彦社長)です。
 鮮度が「命」なので、網に入ったしらすを船上に上げると氷で冷やして持ち帰るのもちろん生しらすも作っています。それと同時に船上で活きたしらすを水や氷に触れさせず、決まった量の特製ダレに漬けた「しらす沖漬け」も人気商品です。



しらす干しも横で、君栄丸直売所

さらに同社は、おいしくできあがった「ちりめん」を独自に和風のタレとガーリック・オリーブオイルを調合して味付けした「ちりめんオリーブオイル」といった新しい感覚の製品を開発するなど、海の恵みを「素材にこだわり、味にこだわって」消費者に届けています。毎週日曜日早朝、三崎朝市が開催され、君栄丸の直売所の各種しらす商品を購入するのを楽しみ来場するお客さんが増えています。



熱心に質疑応答がなされた研修会

神奈川県水産技術センター、(一財)横須賀西部水産振興事業団は今年三月、トラフグ資源管理及び磯焼け対策のための研修会を開きました。水産総合研究センター増養殖研究所資源生産部の黒木洋明グループ長は「アワビ類と磯焼け対策について」と題し、「ガンガゼは低水温に弱く、アワビは磯焼けの本命とみられる」などと話しました。引き続き、同部の鈴木重則主任研究員は「東海三県のトラフグ資源管理

トラフグ資源管理・磯焼け対策研修会



トラフグ種苗を放流

人工種苗の潜砂を主体とした放流後の生態に関する共同研究」事業で、平成二十六年から二十七年に掛けて実施されています。この日、資源生産部で生産したトラフグの成長や滞留状況などを調査する「トラフグ」の確認、放流魚の成長や滞留状況などを調査する「トラフグ」の成長が早く、今回放流したトラフグ種苗も、今年秋には体長が二十二〜二十三センチに、一年半後には約三十五センチ、八百グラムに育ち、大型サイズだと年末には一キロ一万円以上するだけに、種苗放流に大きな期待が寄せられています。

神奈川県水産技術センターが 小田和湾にトラフグ種苗放流

種苗を積んだ活魚運搬車が到着すると、直ちにホースで海に放流しました。なお、平成二十五年まで本県水産技術センターは、水産総合研究センター、静岡県水産研究所などと「トラフグ人工種苗の放流海域への順化過程の解析」について共同研究契約を締結し、国が種苗生産・供給を担当、各県研究機関が藻場などにトラフグ種苗を放流、再捕して食性などを調査してきました。



この日の紙面のトップには「マダイ百万尾種苗放流」という見出しが躍っており、その後、神奈川県は「マダイ栽培漁業のモデル県」といわれるようになり、現在、協会の事業運営は厳しさを増しています。百号発行を機に、さらに種苗生産・供給事業に前向きに取り組んでまいりますので、ご支援をお願いします。



鈴木さんから受け取った寄付

三浦市松輪の遊漁船「棒面丸(鈴木千春社長)」は今年一月、「ラブ・ラブ・マダイ2014棒面丸」の表彰式を行い、昨年積み立てた遊漁者の参加費の一部、十万円をマダイ資源の増大に役立てて、と協会に寄付してくれました。昨年、同イベントに参

「ラブラブマダイ」で積み立て今年も棒面丸から寄付



寄付を受けとる今井専務

ボニアマリナーは五月に「キスマスター2015」を開催しました。七十九艇のヨット・モーターボートと遊漁船二隻、合計百一チームが参加し、参加費の一部約七万九千円を水産資源を豊かにして、と協会に寄付してくれました。

リビエラリゾートシーボニアマリナー キスマスターの参加者が協会に寄付

表彰式で、同社の渡邊藤郎副社長は「今回も皆さんに協力していただき、参加費の一部を神奈川県栽培漁業協会に寄付することができ、資源の大切な情報を発信していきます」と挨拶しました。

編集後記

多くの方々のご協力をいただき発行してまいりました「さいばいニュース」は本号で百号になりました。栽培漁業普及啓発事業の一環として「さいばいニュース」第一号が発行されたのは二十七年前の一九八八年九月一日のことです。